

面河山岳博物館
平成 30 年度全国科学博物館活動等助成事業
報告概要

平成 31 年 4 月 19 日

(1) 事業名

新しい面河溪観光のデザイン～面河溪トコロジスト育成と繋がる博物館づくり～

(2) 事業の目的

面河山岳博物館の立地する面河溪において、「場所の専門家（トコロジスト）」を目指した自然史分野の専門的な講座を実施することで、既に活躍中の野外ガイドのスキルアップを目指す。同時にトコロジストの活動を通して博物館にモノと情報を集約することで博物館活動を補完し、面河溪の環境保全に役立てることで、新しい面河溪観光の在り方をデザインする。

(3) 事業の実施場所及び実施期間

実施場所：面河溪（講座）、面河山岳博物館（展示、講座）

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで

(4) 事業の具体的実施内容

1. 面河溪トコロジスト育成講座の実施

面河溪特有の自然史について知識と経験を深めることで、面河溪という場所の専門家（トコロジスト）を目指した講座を 6 回実施した。対象は既に面河溪や石鎚でガイド活動をしている方やこれからこの場所でガイドを含めた自然観察・調査を通して、博物館活動に関わってみたい方。

講座を受講し、トコロジスト活動の趣旨に賛同下さった方のうち 24 名が「面河溪トコロジスト」として登録されている。

講座①「これからの面河溪観光を考える講座～エコツアーリズムとトコロジストの可能性～」(写真 1)

講 師：山本貴仁（NPO 法人西条自然学校理事長）

日 時：平成 30 年 5 月 20 日（日）10:00～15:00

場 所：久万高原町役場面河支所、面河山岳博物館、面河溪

内 容：面河溪や石鎚をフィールドに活躍するガイドやナチュラルリスト、研究者等を対象に、石鎚山系で実践されているエコツアー事例を紹介し、エコツアーの目的を整理した。その上で場所の専門家（トコロジスト）の意義、取り組み方法を解説し、今後のエコツアーガイドの在り方について意見を交換した。同時に面河山岳博物館をガイドや調査研究の拠点とすることの利点について共通認識をもった。

受講者数：27 名

講座②「面河溪の植物～調べて・残して・保全する～」(写真 2)

講 師：橋越清一（愛媛植物研究会・日本野鳥の会愛媛会員）

日 時：平成 30 年 6 月 16 日（土）10:00～15:00

場 所：面河山岳博物館、面河溪

内 容：溪流性植物や北方系植物などの渓谷特有の種の観察を通して、面河溪の森林の成り立ちや特

徹的な植生について学んだ。またトコロジスト活動の際の地図の使い方や植物の記録方法の実習を行ない、記録することが保全に繋がることを解説した。

受講者数：19名

講座③「面河溪の地学」(写真3)

講師：皆川鉄雄（元愛媛大学理学部教授）

日時：平成30年8月26日（日）10:00～15:00

場所：面河山岳博物館、面河溪

内容：地質学が専門の講師による岩石や地層の観察を中心とした巡検形式の講座。面河溪と古岩屋をフィールドに、石鎚層群と久万層群の岩石とその層の成り立ちを学んだ。同時に一般に理解しにくい地学関連の専門用語を現物と照らし合わせながら解説を受けた。

受講者数：18名

講座④「トコロジスト活動の実践～自然の調べ方・まとめ方・伝え方～」(写真4)

講師：松田久司（日本野鳥の会愛媛代表、自然観察指導員）

日時：平成30年9月22日（土）10:00～15:00

場所：面河山岳博物館、面河溪

内容：トコロジストの活動の一つである「自然や生き物について記録を残すこと」について、その意義や実践方法を学んだ。記録を取ることで、様々な自然の変化や生き物同士の繋がりに気づき、記録をまとめて人に伝えることが、そのフィールドの環境保全に役立つことを各地での様々な取り組み紹介から実感してもらった。

受講者数：10名

講座⑤「面河溪の昆虫」(写真5)

講師：矢野真志（面河山岳博物館学芸員）

日時：平成30年10月21日（日）10:00～15:00

場所：面河山岳博物館、面河溪

内容：昆虫の基本的なグループの見分け方と林内での昆虫の役割について実際に採集しながら解説した。朽木やキノコ、コケ、落ち葉に依存する昆虫、肉食性昆虫など微環境と昆虫の繋がりを意識できるよう、できる限り多くの種を様々な採集法で観察した。また、図鑑や検索表の使い方をセミの抜け殻やカマドウマ、カマキリを使って学んだ。

受講者数：12名

講座⑥「面河溪のコケ学」(写真6)

講師：岩田和鷹（NPO法人西条自然学校研究員、日本蘚苔類学会会員）

日時：平成30年11月11日（日）10:00～15:00

場所：面河山岳博物館、面河溪

内容：蘚苔類の分類が専門の講師によるコケの基礎から面河溪特有の種までを学ぶ講座。森という広い視点だけでなく足元数センチの生態系の存在に気付いてもらうよう、コケをじっくり観察した。博物館周辺でも簡単に見つかる愛媛県レッドリスト掲載種③種（クマノゴケ、ミズスギモドキ、カトウゴケ）の特徴と生息環境について知ること、溪谷環境の厳しさとそこに適応した生物の多様性を理解してもらった。

受講者数：7名

2. 面河溪の自然と文化を紹介する冊子「歩いてみよう！調べてみよう！面河溪の発行

面河溪トコロジスト講座で学んだ内容（今回は特に地質、岩石に関する情報）や景観、植生、観光開発史などをまとめ、一般向けの野外観察用冊子を作成した（写真 7）。一般観光客や登山者が面河溪を歩く際に抱きやすい疑問に答えられるよう、写真や図を多く使うことで理解しやすい構成とした。溪流や岩場で特徴的な昆虫や植物の情報を加え、より多角的に面河溪を学べる内容となっている。

部 数：800 部

体 裁：A5 サイズ、12 ページ、フルカラー

備 考：今後のトコロジストによるガイドの際、参加者に配布する参考資料としても利用する。また、一般向けには当館ミュージアムショップにて 1 部 150 円で販売予定。

3. 面河溪トコロジストによる自然情報発信と博物館のトコロジスト拠点化

面河溪トコロジストが講座で学んだ内容を駆使し、ガイドや野外調査等で得られた成果（写真、標本、観察記録など）を面河山岳博物館に集約し、利用者への公開を目指して、以下のような仕組みを作った。

面河溪の自然や遊歩道の状況等の最新情報の集約のため、ホワイトボードタイプのサインパネル 2 台（面河溪トコロジストボード）を製作し、博物館入口に設置した。ここにトコロジストや博物館職員が自然情報を書き込んだり、印刷した写真等を貼り付けたりすることで情報共有を行なった。1 台には拡大した面河溪地形図を貼り付け、発見・観察した場所を書き込めるようにした（写真 8）。トコロジスト同士がボードに様々な情報を書き込むことで、一定の情報交換や交流ができています。なお、もう 1 台には石鎚山系の地形図を貼り付けている（写真 9）。このボードは移動が簡単にできる構造をしており、面河溪内で移動展示を行うこともあった。

（5）今後の見通し

本事業を通し、22 名が面河溪トコロジストに登録し、新たな仕組みの中で博物館との関係を深めている。しかし、面河溪および博物館が遠隔地であるため、予想していたよりはトコロジストボードの積極的な利用など情報交換を進めることができていない。今後は面河溪の自然や人文に関する勉強会や調査活動を企画することで、こういったツールの効果的な利用を含めた、コミュニティ内部そして博物館との繋がりを強化していく予定である。

【平成 31 年度の活動計画】

- 4 月 面河溪トコロジスト勉強会（面河溪の国有林の利用について）
- 5 月 面河溪と久万高原の植物相調査（専門家による特徴的な植物の解説）
※秋の企画展として調査成果を公表
- 6 月 面河溪と久万高原の植物相調査（標本採集と標本作成など）
- 7 月 面河溪と久万高原の植物相調査（標本採集と標本作成など）
- 8 月 面河溪と久万高原の植物相調査（標本採集と標本作成など）
- 9 月 面河溪と久万高原の植物相調査（標本採集と標本作成など）
秋の企画展、展示準備
- 10 月 企画展「面河溪と久万高原の樹木」開催
- 11 月 面河溪トコロジストによる植物解説講座等イベントの開催

活動写真一覧



写真1. 講座①「これからの面河溪観光を考える講座」



写真2. 講座②「面河溪の植物～調べて・残して・保全する～」



写真3. 講座③「面河溪の地学」



写真4. 講座④「トコロジスト活動の実践」



写真5. 講座⑤「面河溪の昆虫」



写真6. 講座⑥「面河溪のコケ学」



写真7.

面河溪トコロジストボード①
面河溪の地質図が印刷され、開
花状況や珍しいキノコの情報
などを記載し、トコロジスト同
士、来館者が情報共有した。



写真8.

面河溪トコロジストボード②
石鎚山系の地形図が貼り付け
られている。地学講座の際は地
質図を添付して地形図と対応
させ、入館者やトコロジストの
理解を促した。